

京都の改革

個性的な専門学科が市立高校の魅力を高める。

物理、化学、生物、地学と四つの実験室を備えた京都市立堀川高校の別棟「本館」は生徒の研究拠点だ。放課後の生物実験室では、パソコンでレポートを作成中の自然科学部員に、元部長の上田宏樹君(18)(3年)が助言をしていた。

上田君は2005年、携帯電話を利用した自然科学分野の全国コンテストに、校内の有志で応募してグラブプリを受賞した。携帯電話のカメラと特殊なフィルター装置を組み合わせた紫外線測定計などのアイデアで、光化学スモッグの研究に応用できる。これらの実績が評価され、慶応大で理

教育ルネサンス

No.522



放課後の生物実験室で、後輩に助言する上田君(右)



個性伸ばさず専門学科

工学部に推薦入学が決まった。進学後も環境測定の研究を深めつもりだ。

堀川高には、ゼミ形式による高度な研究を柱に、難関大進学を視野に入れた自然探究科と人間探究科がある。1999年に出来た。

上田君は従来からの普通科の生徒だが、探究科の要素を取り入れた授業で研究に興味を持ち、自然科学部

に入った。「どんなことを調べたいか相談すれば、先生が専門書を見て助言してくれる。生徒の意思を尊重するのが堀川らしさです」

3期生の正田彩佳さん(21)(東京大学法学部3年)が振り返る。

高校では、環境活動と連動した地域通貨の取り組みを進めている喫茶店に注目し、「カフェは社会を変えられるか」を研究した。当時、実地調査や論文作成、ディベートなど、大学受験に直結しないような勉強をする理由までは、分からなかったが、今は違う。「色

「学生同士のグループ討論や発表など、採用試験で求められるのは探究科で学んだこと。今思えば、堀川高はビジネススクールだったんですね」

就職活動を始めた探究科

京都市には、ほかに、西京高に起業家養成を目的とするエンタープライジング科が、日吉ヶ丘高には英語科がある。今春、塔南高に教員養成専門の教育みらい科が誕生すると、普通科系市立高5校のうち4校に個性的な専門学科がそろ

京都市には、ほかに、西京高に起業家養成を目的とするエンタープライジング科が、日吉ヶ丘高には英語科がある。今春、塔南高に教員養成専門の教育みらい科が誕生すると、普通科系市立高5校のうち4校に個性的な専門学科がそろ

府立高も新しい専門学科 個性的な専門学科は全国的に誕生しているが、京都では府立高にも、京都の文化を重視した嵯峨野高京都こすもす科を始め、桃山高自然科学科、南陽高サイエンスリサーチ科など、ユニークな学科が目立つ。今春には人間環境科なども加わる。一方、文部科学省の学校基本調査では、商業科が5年前の858校から108校減るなど、従来型の専門学科は減っている。

堀川高は京都大学への現役合格率が3年連続で全国の公立高トップ、昨春の西京高の1期生は、206人中延べ106人が国公立大に合格。成果は進学実績だけでは計れないが、市立校の魅力は確実に高まっている。(木田滋夫)

次週からのテーマは、高い就職率などで注目される高等専門学校の実力です。

次週からのテーマは、高い就職率などで注目される高等専門学校の実力です。

次週からのテーマは、高い就職率などで注目される高等専門学校の実力です。

次週からのテーマは、高い就職率などで注目される高等専門学校の実力です。

次週からのテーマは、高い就職率などで注目される高等専門学校の実力です。